

Case : 341

暖房でベース部分が熱くなり、足を火傷しそうになる

場面の説明

床置き手すりの近くに暖房を設置していたため、ベースや支柱部が高温になっていた。そこに素足をのせてしまい火傷しそうになった。

同居家族は認知症で危険性の理解が困難だった。



利用シーン	 移乗  立ち座り  排泄
主な利用場所	 トイレ
介護保険の種目	 手すり
分類コード (CCTA95)	123009 (床置き式起き上がり用手すり)
介護テクノロジー	—
二次元バーコード	

解説

トイレや脱衣所等での寒さ対策、ヒートショック対策として、暖房をすることが一般化してきましたが、狭い空間にヒーター等の暖房器具と福祉用具を置くと接近しすぎてしまい、その結果、金属部分が高温となり、火傷や火事の原因になることがあります。狭い空間における暖房は、必ず危険性の事前評価が必要です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

- 人：暖房器具で手すりの金属部分が熱くなることを予測できていなかった
- モノ：ヒーターの熱により、金属部分が高温となった
- モノ：金属部分がむき出しでカバーがなく、より高温となった
- 環境：トイレ内が狭かったため、ヒーターと手すりが接近していた
- 管理：事前に予測し、火傷の危険性を回避した対案をアドバイスする必要があった